

7 耕作放棄地再生利用緊急対策事業 実証農場結果の概要及び現状

年度	圃場区分	作物名	品種	実証区分	実証内容	実証結果	農業者の意見等	現状
22	ハウス	ホウレン草	サイクロンカイト	新緑導入品種比較	グリーンアスパラガスの後継作物選定の導入試験 収量、品質比較、作業体系	品種「サイクロン」、品種「カイト」は同等の品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。 当期にもよるが播種から収穫まで約30日～40日、2回目の事業等をこめ1サイクルは約40日。 作業体系では、4回の作付けは可能と思われる。 しかし、収穫、選別、梱包など作業体系は収益性を考えると効率化を図るなど今後の検討課題である。	複合経営者からは、他の作物と収穫期が重なるため、複数回作付けが基本となるホウレン草の栽培は農業経営全体の作業体系から難しいとの意見が多数であった。 しかし、50年代の農業者からは、将来的に自分が高齢者となったときに、現在の複合経営では設備更新費用が経過において最大の検討事項となり、設備の導入コストも比較的小さいことから、単作農業経営に切り替えるには、参考となったとの意見があった。	現在町内では、栽培されていない。
22	ハウス	スナッフエンドウ	ニムラサラダスナッフ	新緑導入品種比較	グリーンアスパラガスの後継作物選定の導入試験 生育、収量、品質比較、作業体系	品種「ニムラサラダスナッフ」で収量、品種比較試験を実施。 生育は概ね順調であったが、収穫期に「うどんこ病」、「アブラムシ」が発生し、収量が基準の半分に落ちた。 病害の発生は、生育の異変となる病気の発生に気づかず、防除が遅れたことが原因。 病害虫の発生により、収穫、選別などが必要以上に労力が発生し、実証参考データには至らなかった。	・栽培については、支柱、ネットなど栽培準備に時間を要する。 ・収穫作業も人作業で慣れないと時給がかかり、農業者個人で収穫となり、収穫から出荷間までの保管場所や方法なども課題になると思う。	現在町内では、栽培されていない。
22	ハウス	ホワイトアスパラガス	ハイトル	栽培方法	遮光フィルム被覆法によるホワイトアスパラガスの導入試験（加温・慣行） 生育、収量	1年目は定植し、立茎栽培のみ生育は順調	-	-
22	露地	ハトムギ	オホーツク1号	新緑導入品種比較	焼作の輪作体系を確保するための導入試験 生育、収量、作業体系	品種「オホーツク1号」は品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。 販売先の確保及び販売準備などの収益性が課題。 収益性が確保できれば、当初の焼作農業の理想とする輪作の課題が解消され、土地利用型の農業では、導入に大きな期待がある。 作業体系が他の作物に比べて、労力を要しないが、収穫期が10月下旬ころとなり、害害が心配される。	・栽培にかかる農業機械等の設備が大豆栽培と同様であり、新たな設備投資の必要がなく、既存設備の有効利用が可能であり、焼作の輪作を確保できる。 ・販路及び収益性の確保ができれば、担い手農業者の経営規模拡大も可能となる。	平成27年度で、契約栽培により、3戸の農業者で26ha栽培されている。 土地利用型作物として、今後も販路及び作付拡大が期待されている。 現在の栽培品種は「はとくら」
22	露地	大豆	たまふくら	品種試験	高付加価値型農業を実施するため、収益性の高い品種の導入試験。 「たまふくら」は道南で生まれた新品種。 生育、収量	品種「たまふくら」は道南で生まれた新品種で特大粒大豆。 生育は順調で品質は確保できたが、1株あたりの実数が少なく、1畝実が自立し、収量が期待できなかった。 また、選善による影響と思われるが、紫斑病の発生も見られた。	・収量が少なく、単価は良いが、既存品種と比較し、収益性を考えると導入は難しい。	現在町内では、栽培されていない。
23	ハウス	サツマイモ	南門金時紅あすま	新緑導入品種比較	グリーンアスパラガスの後継作物選定の導入試験 選育作物（トマト・きゅうり）の連作障害にかかわる輪作作物選定の導入試験 収量、品質比較、作業体系	品種「南門金時」は塊根の大きさは十分であったが、形の乱れが確認された。 塊根の形の乱れは、灌水量が少ないことが原因と考えられる。 品種「紅あすま」は品質及び収量、食味の評価も良かった。 町内農家の協力により、産直販売を実施したが、馬鈴薯と比較し、販売が伸びなく、道内では販売量が少ないことが確認された。 ハウス栽培では作付面積に限りがあり、流通を含めた販路の確保が課題となり、導入は難しい。	・収穫が1回で終わるため、作業体系が他の作物と比べて、労力が少ないことは評価できるが、農協など共選が実施されていないことから、農業者個人で収穫となり、収穫から出荷間までの保管場所や方法なども課題になると思う。 ・ハウス栽培ではなく、露地栽培で品質及び収量が十分で、販路の確保もできれば、ジャガイモシストセンチュウ対策として、導入の可能性はあると思うが、規模適度で確保できるのか。	現在町内では、栽培されていない。
23	ハウス	カリフラワー	美星スノークラウン	品種試験	グリーンアスパラガスの後継作物選定の導入試験 選育作物（トマト・きゅうり）の連作障害にかかわる輪作作物選定の導入試験 収量、品質比較、作業体系	品種「美星」、品種「スノークラウン」は同等の品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。 ハウス栽培では生育日数が約60日～70日と他の前後作作物との組み合わせの検討が必要となるが、トマト等の後作に実用性はある。	・高設イチゴ栽培は、栽培が難しく、また近年は日照不足などで、収量が減少し、全国的に産地が拡大したこともあり、市価価格も下落し、地域の農業経営（作物転換）の課題となっている。 この課題の解決に向けた経営モデルとして、市価価格が安定し、栽培も容易なトマト・キュウリ等の前後作作物と組み合わせ、連作が可能なトマト等の前後作にカリフラワーを導入してはどうかとの意見もあった。	露地栽培により、3,000m栽培されている。
23	ハウス	ホワイトアスパラガス	ハイトル	栽培方法	遮光フィルム被覆法によるホワイトアスパラガスの栽培試験（加温・慣行） 生育、収量、品質比較、作業体系	定植2年目のため、継続して株を養成する。	-	-
23	露地	枝豆	輪延	新緑導入	高付加価値型農業を実施するため、収益性の高い作物の導入試験。 「輪延」は極早生で育種家が考へた新品種。 生育、収量	品種「輪延」は品質は十分であるが、収量が導入の品種に比べて大きく、収量も基準の特産としては、極早生で生育は道南の気候でも約90日程度であるが、草丈が35～45cmと低いため、1畝あたりの実数が少ない。 栽培事例が少ないこと、農業者からの提案もあったことから、次年度も他の圃場で継続試験を実施。	・草丈が低く、表土と莢の間隔がなく、収穫機械が使えないので、手作業による収穫となり、導入は難しいのではないかと。 ・ハウスで栽培した場合には、生育日数も短縮され、栽培費用に合った単価となれば枝豆品種として導入を検討できると思う。 ・枝豆は採種していないので、単産となる場合、選別設備の導入費用はどのくらいかかるのか。（乾燥機・洗浄機・選別コンベア・梱包機） ・後作生品種の大豆とした場合の品質問題はあっても、外にはない品種なら、加工適正もあると思うが、製菓加工で加工し、名産ブランドの特産品として加工もよいのではないかと。	現在町内では、栽培されていない。 品種「輪延」の栽培がきっかけとなり、地大豆5品種により、加工試験を実施。 事業主体は別な団体であるが「大栗白乙女」、「輪前どどり」、「輪延」の3品種で味噌加工試験を実施。 現在「大栗白乙女」を味噌に加工して試験的に販売。
23	露地	馬鈴薯	キタアカリ	品種試験	ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種としての導入試験。 生育、収量	品種「キタアカリ」は品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。	・ジャガイモシストセンチュウが発生した圃場では、抵抗性があるので、栽培は良いと思うが、JA新庄はここまでは共通していない、徹底は設備投資が必要となる。 ・作付面積を拡大するには、収穫後の選別、発送など農家の個人レベルでは難しいのではないかと。 ・独自で販路を探すことは難しい。	平成27年度で、1戸の農家で1ha栽培。
24	ハウス	ネギ	九条ネギホワイトソード	新緑導入品種比較	高付加価値型農業を実施するため、収益性の高い作物の導入試験。 収量、品質比較、作業体系	品種「九条ネギ」、品種「ホワイトソード」とは同等の品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。 また、食味も良く、直売で販売したが評価も良かった。 農業者からの提案もあったことから、次年度も他の圃場で露地栽培試験を実施。	・消費者からの評価も良いなら、導入の実用性も十分にあると思う。 ・産直販路の導入費用や作業体系についてはどうか。 選別機械（皮むき機）100万～150万 作業体系については、裾野狭で他の作物が残っているため、4人程度で1日ハウス1棟程度の収穫。 ・露地栽培での可能性はどうか、軽量野菜のため高齢農業者でも収穫の負担が少ないので、導入できるのではないかと。	平成27年度で、露地栽培で1法人で1ha栽培。 収益性もよく、栽培も順調で今後作付拡大を検討している。
24	ハウス	サトイモ	土垂石川早生	新緑導入品種比較	高付加価値型農業を実施するため、収益性の高い作物の導入試験。 収量、品質比較、作業体系	品種「土垂」、品種「石川早生」は品質、収量ともに高く、実証参考データには至らなかった。 出荷する子芋に小さい誤手が増加発生し、出荷単価となる規格サイズが収穫できなかった。 農業者からの提案もあったことから、次年度も他の圃場で露地栽培試験を実施。	・道内ではサトイモ栽培の事例もなく、栽培方法を発見して継続してはどうか。	現在町内では、栽培されていない。 水稲農家から選善への耐性があるのとこと、転作物として試験栽培の申請があったが試験結果は同様であった。
24	ハウス	ホワイトアスパラガス	ハイトル	栽培方法	遮光フィルム被覆法によるホワイトアスパラガスの導入試験（加温・慣行） 生育、収量、品質比較、作業体系	品種「ハイトル」はホワイトアスパラガスで品質及び収量が期待でき、導入の実用性は十分ある。 加温では、慣行栽培にくらべ収穫期が若干早くなるが、収量の違いはない。 遮光するため、気温が低く、グリーンアスパラガスより収量は劣るものの、市価価格は高く、安定している。 また、従来の培土法では、土の中でアスパラが育つため収穫作業に熟練の技が必要であったが、遮光法では目視で確認して収穫が可能で作業効率が良い。	・収量及び価格はグリーンアスパラガスと比較してどうなのか。 ・価格については、2割程度減少し、価格は1ha当たり10日程度で安定している。 ・遮光フィルム被覆法は従来の	平成25年度まで継続して栽培していたが、市価価格に変動があり、グリーンアスパラガスとの同程度の価格となったため、現在は栽培されていない。
24	露地	小豆	ほまれ大納言	品種比較	高付加価値型農業を実施するため、収益性の高い作物の導入試験。 「輪延」は極早生で育種家が考へた新品種。 生育、収量	品種「ほまれ大納言」は品質は十分であるが、「従来品種の「とよみ大納言」と比べ、収量が少ない。 市価価格は「ほまれ大納言」>「とよみ大納言」であるが、導入の実用性は十分ある。 しかし、総合的に比較し、収益性が向上するものではない。	・ほまれ大納言は市場価格も安定し、品質が十分の結果なので、選地品種として導入してみたいなどの意見があった。	現在町内では、栽培されていない。
24	露地	ブロッコリー	隣隣スターラウンド	新緑導入品種比較	基幹作物となっている「ブロッコリー」の新品種比較試験（軟肉病耐性等）	品種「隣隣」、品種「スターラウンド」は収量は十分であるが、品質に課題があり導入は難しい。 「隣隣」は葉の形状が開いて、病害中の発生原因となる恐れがある。 「スターラウンド」は花蕾形状の乱れが確認され、規格外の発生率が懸念される。 ブロッコリーについては、継続して品種比較試験を実施。	・ブロッコリーは、今までは基幹作物として定置し、隣隣では水稲に次ぐ主力作物となっている。 今後も継続して、栽培適地品種選定に向けた品種比較試験を要望したい。	乙部町の基幹作物として9戸の農家で24ha栽培。 品種比較試験については、継続中 毎年度2～3品種の比較試験を実施。 現在の主力品種は「ジェットドーム」「スビーードーム」、「084」の3品種。

本事業だけではないが、実証圃場の取り組みが契機となり、これまでは地域農協の推奨する作物や品種が農業経営の基本となる栽培作物や品種であったが、農業者自ら新緑作物等の導入試験や栽培法の試験を行うなど

農業経営についての意識に変化があり、現在も新たな栽培法や品種比較試験は継続して実施されている。